

資料① 感染症対策ガイドライン (令和3年4月1日改正)

1 基本的な感染症対策の徹底

- 手洗いやうがい、活動場所の除菌等の基本的な感染症予防対策を徹底する。

2 無観客での実施 (引率者の人数は、監督(顧問)・コーチを含めて最大5人までとする。)

- 出場選手と監督(顧問)、コーチ、引率者以外の会場の立ち入りを禁止、会場内の密集状態を緩和する。
- 競技終了後は帰宅することとし、勝ち残った選手と監督(顧問)、コーチ、引率者以外の会場への立ち入りを禁止する。

3 開・閉会式の中止

- 開・閉会式を中止し、諸連絡及び進行説明は放送によって行う。表彰は伝達表彰とする。

4 換気の徹底

- 定期的に会場内の窓を開放し、換気を行いながら競技を行う。

5 試合のマナー (団体戦・個人戦・ダブルス戦のすべての競技について同様に対応する。)

- 試合前と試合後のあいさつのみとする。(対戦相手、審判員、コーチとの握手を禁止とする。)
- 大きな声やガッツポーズ等の禁止、卓球台に手汗を拭くことを禁止する。

6 手指の消毒及びマスク着用の徹底

- 会場出入り口と競技フロア出入り口に消毒液を設置し、監督(顧問)、コーチ、引率者、出場選手の手指の消毒を徹底する。
- 会場内でのマスク着用を徹底する。(試合中は外しても構わない)

7 大会参加者(監督(顧問)、コーチ、引率者、出場選手)の健康状態チェック

- 監督、引率者の指導のもと、別紙様式②の健康状態申告書に記入し、提出してもらう。

8 団体戦・個人戦・ダブルス戦のアドバイザー及び人数の制限

- 競技フロアの密集とセット間のアドバイス時の密接状態を避けるため、団体戦・個人戦・ダブルス戦のアドバイザーを監督もしくはコーチの1人とする。(団体戦は2人とも入れる)
- 密集を避けるため、団体戦登録メンバー以外の選手が競技フロアに降りて審判を行うことを原則として禁止、相互審判や個人戦では敗者審判とし、競技フロア内の人数を抑える。

9 ボールの交換

- 試合球を適宜消毒・交換し、感染予防に努める。